



# エコボロン®と農薬の違い

エコボロン PRO		農薬系	
<b>主成分</b>	ホウ酸塩 (DOT・ティンボア)	<b>主成分</b>	合成ピレスロイド系・ネオニコチノイド系など アレスリン (合成ピレスロイド) イミダクロプリド (ネオニコチノイド) シプロコナゾール (トリアゾール) など
<b>作用</b>	<b>食毒性</b> ○木材に浸透して保護する ○シロアリが口にすると死にいたる	<b>作用</b>	<b>神経毒性</b> ○揮発した成分がシロアリの神経を破壊する ○人や犬・猫にも有害
<b>特徴</b>	①揮発・蒸発しないので部屋の空気を汚さない ②分解もされないため、ホウ酸塩の流出が起こらない条件下では、効果が半永久的に持続する ③雨水が常時かかる場所や、直接地面に埋める場合には不向き	<b>特徴</b>	①揮発するため、シックハウス症候群を引き起こす一因とされている ②揮発・分解するため持続効果が短い (最長5年) ③床下の空気を室内に循環させる工法では使用できない
<b>欧米では</b>	米国では、ホウ素系防腐防蟻剤が主流を占め、ヨーロッパでも古くから普及している	<b>欧米では</b>	土壌用として認められているが、木部用は認められていない

- 欧米諸国では土台や柱など、通常雨の当たらない部位では、ほう素系防腐防蟻剤が使用されています。一方、わが国の防蟻業界では農薬メーカーが主導権を握るため、ホウ素系の認知が進んでいません。
- 健康住宅志向のハウスメーカー・ビルダーの中には、住宅性能保証制度において、危険な農薬による現場処理を避け、「等級3」ではなくあえて「等級2」を採用する傾向が強まっています。